仙台・文化財サポーター会活動記録（保存継承部会）

〇開催日　2026 年 10 月 16（金）
13 時～15 時
〇参加者　14 名
〇テーマ
菊地さんによる『仙台のダークな伝承を探る』シリーズ再開２回目。
今月はダークな伝承ヶ所を含め３ヶ所巡見しました。
①大満寺　千体仏堂（向山）
②宗禅寺　鶏伝説（根岸）
③銭形不動尊（花壇）

まず、前回話題にした千体仏の流れで、「大満寺の千体仏堂」に立ち寄ってみました。

①千体仏堂
大満寺虚空蔵堂の西 30m ほどのところに千体仏堂があります。大満寺が別当として青葉山にあった時以来祀ってきた仏堂です。
仙台城は中世「千体城」と称し国分氏の居城でした。城名は千体仏が同所に祀ってあったため名付けられ仙台の地名の起りといわれています。

千体仏堂は戦災によって大満寺と共に焼失。現堂は昭和 58 年（1983）の再建で、現存する千体仏の一部はおおよそ 450 体で、うち原仏と目されるもの 300 体、他は後年の作と思われるという。（注、戦時中は仏像は戦災を免れるため、地方に一時遷座していた）

〇千体仏堂



○堂内の千体仏



○千体仏堂前の「鐘楼」

明治以来、鐘の音は朝夕の時を知らせる「愛宕山の鐘」として市民に親しまれ、また火災時には早鐘をついて知らせたといいます。

現在ある鐘は茂ヶ崎の大年寺にあったもので、５代藩主吉村が父綱村が死去した時、８代将軍吉宗から香奠として銀５百枚を受け、その金をもとに父の供養のために享保５年（1720）に造らせたものです。

梵鐘の縁は波状に鋳造され、鐘の表面を縦に区分する帯に「享保庚子年夏五」、「両足山大年禅寺」と大きく銘を鋳出している。梵鐘は総長 98.5cm、径 75.8cm、龍頭高 32cm の青銅造りで、昭和 52 年仙台市の有形文化財に指定されています。



② 宗禅寺 鶏伝説（根岸）

（仙台のダークな伝承を探る動物編）

曹洞宗宗禅寺は室町期に仙台の地を治めていた粟野氏の菩提寺。

寛文 13 年（1661）宗禅寺の住職は不思議な夢を見た。びしょ濡れのにわとりが現れて「私は檀家の庄子宅にて飼われていたにわとりだが、一緒に飼われている猫が一家を殺そうと企んでいるのを知り三日三晩泣き続けました。ところが主人は夜鳴きするにわとりを不吉だと言って、私を殺して広瀬川に投げ捨ててしまった。私の屍は宗禅寺の崖下の抗に引っかかっています。どうか主人達の命を教いたいので、朝飯の前に行ってこのことを伝えて欲しい」と願った。

住職が川へ行くとにわとりの死骸が引っかかっていたので慌てて庄子家を訪ねると朝飯を食べようとしていたところであった。住職が夢の話をしている時、汁鍋の蓋が開けられており一匹の猫が何気ないそぶりで汁鍋を飛び越した。住職は猫が尻尾を汁鍋の中につけるのを見逃さなかった。その場を離れた猫を追って住職が竹藪に入ると、猫が竹の切り株に尻尾を入れるとまた家に向かって行った。怪しんで切り株の中を覗くと、そこには蜥蜴や虫が腐って毒液となっていたのである。全てを理解した住職は仔細を庄子に伝えると、庄子はにわとりを殺した事を悔いて懇ろに弔ったという。

にわとりの墓には寛文 13 年（1661）に庄子太郎左工が建立したことが刻まれている。正面には『卍不是人間之塔（これは人間の塔ではない）』と彫られている。

何故飼い猫が主人を殺そうとしたのか？また殺人未遂をした猫はその後どうなったのか？逃げたのか？捕まったのか？

謎が残ります（笑）

〇宗禅寺山門



○ 不是人間之塔



○粟野氏の墓

境内の奥まった高台には戦国時代に仙台平野南部を治めていた《粟野大膳》の供養塔があります。



◯粟野大膳供養塔



③銭形不動尊（花壇）

仙台藩主伊達政宗が仙台藩のお金（仙台通宝）を作る際にどのような型にしようか考えていたところ、お不動様が現れてこのような型にした方が良いと教えてくれましたので、その型を石に膨って銭形を作りました。
その後、その銭形が不要になったので、反対側の面にお不動様を彫り、青葉山の見える花壇の地にお宮を建立して祀りました。

大正 10 年（1921）頃まではお宮があったそうですが、壊れてお宮は川に流されお不動様も川に落ちてしまいました。その後、広瀬川に提防を作る時、川から引き揚げ花壇川前丁の現在の場所に安置されました。
現在は掘られたお不動様を見ることはできますが、石垣に張り付いた状態なので仙台通宝の銭形は見ることはできません。

現在の安置されている場所から上流の仙台市民会館周辺では、水害などが起きるたびに人命を失うことが多く、反対に銭形不動尊付近では流れ着いた人を救い上げたり、水死者を引き上げる事が多いことから銭形不動尊は「人助け不動」と呼ばれ、現在でも信心する人が多く訪れています。

○銭形不動尊の上部から広瀬川の景色を望む



○銭形不動尊





○銭形不動尊解説掲示板


銭形不動尊について
藩祖政宗公が仙台藩のお金（仙台通宝）をつくるとき
どんなにしようと考えていましたそのとき不動様が現れてこな
型にした方が良いと教えてくれましたのでその型を石に彫って銭型を
作ったとのことです。
その後 その銭型が不要になったので反対側の面にお不動様を彫
りました。そして青葉山の見える花壇にお宮をつくって祀りました。
大正十年頃までお宮が残りましたがその後 壊れてお宮は川に流
これ お不動様は川に落ちてしまいました。
その後 広瀬川の堤防を作る時 川から引き上げ 花壇川前丁
の現在の場所に安置しました。石に彫りはいたようになっているの
で銭型は見ることはできません。
なお 上流の常宮寺の不動尊付近（現市民会館周辺）で 水害
その他のたびに人命を失うことが多く 反対に銭形不動尊 付近では
流れ着いた人を救い上げたり 水死者を引き上げるなどが多いこと
から 銭形不動尊は「人助け不動」と呼ばれ 信心する人が参詣に
訪れています。

○おわりに

気になる「千体仏」について調べてみました。

『封内風土記』によりますと、

「往古」（天正元年 1573 以前）、城地にあった虚空蔵堂、千体仏は「中古」に荒魔無住になったこともあり千体仏が散失している。

大満寺のほか、千体仏が伝存しているところとして光禅寺地蔵堂、龍華庵、白鳥明神社や満蔵寺千体仏堂がある。光禅寺地蔵堂千体仏は大正 13 年に焼失し、龍華庵、白鳥明神社千体仏の有無は不明であるが、満蔵寺千体仏は現存しており、しかも千代城地から移されたことも考えられるほどに古様を帯びている」と「市史せんだい」には記載されています。

以上　本多正明（記）

（参考）

- 太白の散歩手帖
- 市史せんだい vol.10
- 各所の解説掲示板